

命の尊さ、学ぶ契機に

第7回ペットとの共生推進シンポジウム

「子供の動物介在教育」テーマに

ペットとの共生推進協議会は10月8日午後1時から、東京都文京区の東京大学弥生講堂・一条ホールで「第7回ペットとの共生推進シンポジウム」を開催した。

「ペットが育む心と体の健康」子供の動物介在教育」をテーマに、シンポジウム基調

講演とパネルディスカッションを行った。

推進協議会の永村武美会長のあいさつに引き続き、帝京科学大学生命環境学部アニマルサイエンス学科准教授の濱野佐代子氏が子供

の動物介在教育についての基調講演を実施。動物介在教育として、動物への子供の愛着心に留意することや

飼育動物の場合は、個々の子供と動物との関係づくりを意識して飼育する重要性などを述べた上、大人と動物の関係が子供に重要な影響を与えることを説明した。

その後開かれたパネルディスカッションでは、シンポジウム実行委員長で日本ペット用品工業会会長の赤津功

一氏(トラス)を司会進行役として、ナチュラルドッグスタイル動物飼育/動物介在学習プログラム開発主務の須崎大氏、東京都医学総合研究所心の健康プロジェクトリーダーの西田淳

志氏、ペット研究会「互」主宰の山崎恵子氏、立教女学院小学校教頭の吉田太郎氏らが「子供たちに生きものはなぜ必要か」「子供の動物介在教育はどのようにしたら根づくか」

「ペットが育む心と健康の実現に向けて」を論点にディスカッションを実施。赤津氏は「命の大切さを教えてくれる動物に触れ合う機会が少なくなっている。環境により犬や猫を飼えない人もいると思うが、犬や猫だけではなく、金魚や昆虫、小動物などでも飼育を通じてペットの命の大切さを感じてもらいたい」と呼びかけた。



進行役を務める赤津実行委員長



専門家が動物の役割について議論を交わした

最後に、推進協議会副会長でペットフード協会会長の石山恒氏(マースジャパンリミテッド)が閉会のあいさつを述べた。